



＼みんなで実践！／ 未来のための チェックリスト

事業者編

足立区は、「まち」に関わる全ての「ひと」が環境について学び、自ら率先して環境負荷の少ない行動を選択して実践する、「地球にやさしいひとのまち」を目指しています。

～チェックリストの使い方～

かけがえのない足立区の未来を守るため、今できることは何か。既に取り組んでいる項目には、まだの項目があれば取り組みのヒントを参考に、できることから始めてみましょう。

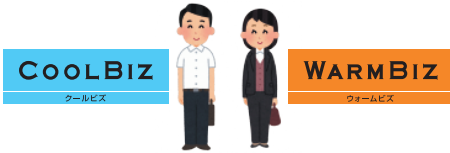
- ・ エネルギーを賢く使い、気候変動に備えよう (P1)
- ・ 生活環境を良くしよう (P3)
- ・ 環境を学んで行動しよう (P5)
- ・ 循環型社会をつくろう (P2)
- ・ 自然環境や生き物を守ろう (P4)
- ・ CO₂排出量を減らそう (P6)

1 エネルギーを賢く使い、気候変動に備えよう

今できることチェックリスト

取組みのヒント

- クールビズ・ウォームビズを推進する



適度な温度調節は健康の増進だけでなく、仕事のパフォーマンス向上にも繋がります。服装以外にも、温・冷感グッズの活用などにより、クールビズ・ウォームビズを推進しましょう。

- 積極的な階段利用を推進し、エレベーターの使用回数を減らす



エレベーターの稼働台数を減らすなど工夫をしましょう。また、エレベーターの代わりに階段を使うよう促し、健康づくりに繋がしましょう。

- 省エネ診断を受けて、効果的な省エネ対策を実施する



省エネのプロによる診断を受け、具体的なアドバイスをもとに省エネ対策に取り組んでみましょう。



くわしくは

- 事業所で使用する電力を再生可能エネルギー由来の電力へ切替える



再生可能エネルギー（太陽光や風力等）で発電された電力は、発電時に二酸化炭素を排出しません。電力契約の見直し時にご検討ください。



くわしくは

- 社用車を買替える際は、ゼロエミッション・ビークル(ZEV)^{ゼブ}*を選択する



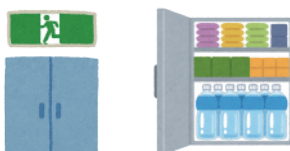
足立区ではZEV^{ゼブ}の購入や電気自動車等用の充電設備の設置に対し、補助金制度を設けています。ぜひご活用ください。



くわしくは

※ 走行時に二酸化炭素等の排出ガスを出さない電気自動車(EV)や燃料電池自動車(FCV)、プラグインハイブリッド自動車(PHV)のこと。

- 災害時の従業員の避難行動などについてあらかじめ決めておく



気候変動の影響により増加するおそれのある災害に備え、事業所内で事前に災害備蓄の確認や避難経路を検討しておきましょう。足立区災害ポータルサイトでは、防災情報や避難情報をまとめています。



くわしくは

2 循環型社会をつくらう

今できることチェックリスト

取組みのヒント

- ペーパーレス化^{*}に努める



紙は生産・廃棄の過程で環境に大きな負荷がかかっています。データの電子化や裏紙の再使用などに積極的に取組みましょう。

※ 資料や書類などを紙に印刷することからコンピュータシステムの画面表示などに代えて、紙やコストを削減し、業務の効率化を図ること。

- 生産・流通・販売の過程で、プラスチックの使用制限や包装の抑制等を心がける



商品自体やそれを包装する素材の見直し、容器の軽量化などでプラスチックの使用量を削減できます。環境省の「Plastics Smart」では、プラスチックごみ削減の取組みを紹介しています。

くわしくは 

- 廃棄物の保管場所を設置した上で、分別を徹底し、3Rを実践する



3Rの推進は企業のイメージアップや従業員の意識啓発、コスト削減・効率化、地球環境の保全など、多くのメリットがあります。

- 廃棄物の処理は責任をもって適正に行う



事業者から出る廃棄物の分け方や出し方については、足立区ホームページでくわしく知ることができます。

くわしくは 

- 社員食堂や飲食店では、ハーフサイズや小盛りメニューの導入で食品ロスを削減する



食品ロスを削減することで廃棄食材分の仕入れ費用を抑えることができます。食事量を選択できるメニューを導入し、食べ残しが減るような工夫をしましょう。

くわしくは 

- 食品廃棄物を削減する



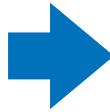
社員食堂や飲食店などで出る生ごみのうち、再資源化できるものは、たい肥化工場や飼料化施設などへ持ち込むと肥料や飼料などに生まれ変わります。また、生ごみ処理機でのたい肥化も効果的です。

3 生活環境を良くしよう

今できることチェックリスト

取組みのヒント

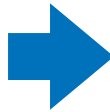
- 事業所周辺の美化活動に取り組む



足立区では、ビューティフル・ウィンドウズ運動として、清掃活動や花のあるまちかど事業を行っています。ぜひご参加ください。



- 事業所等を新築・増築する際は、景観等に配慮する



建物などの色やデザインは周辺のまち並みと合っていますか。外壁や屋根には使用できる色の基準がありますので、新築・増築の際は基準を確認しましょう。

- 建設工事などを実施するときは騒音・振動・悪臭を発生させない



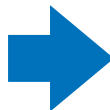
騒音規制法、振動規制法上の特定建設作業に該当する場合、事前に届出が必要です。周囲の環境に配慮し、工事を行いましょう。

- 騒音の原因となる機器などを使用する場合は、適切な措置を講じる



防音シートや防音パネルなど適切な措置を講じ、近隣住民に配慮しましょう。

- 建築物等の解体、改造、補修工事を行う際は、アスベスト対策を行う



一定規模以上の解体、改修工事を行うときは、アスベストの有無に関わらず、アスベスト調査結果の報告が義務付けられています。



- フロン類や有害化学物質は、法令に基づいて適正に処理や管理を行う



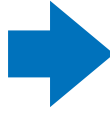
業務用冷凍空調機器がフロン排出抑制法の対象となるか不明な場合には、室外機の銘板やシールを確認したり、メーカーや販売店に問い合わせましょう。

4 自然環境や生き物を守ろう

今できることチェックリスト

取組みのヒント

- 従業員研修の一環として、自然や生物とふれあう機会をつくる

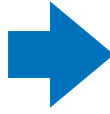


足立区には、「生物園」「都市農業公園」「荒川ビジターセンター」「桑袋ビオトープ公園」といった自然や生物にふれあうことができる施設があります。



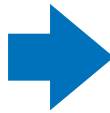
くわしくは

- 環境イベントや、生物の観察会・調査などに地域の一員として積極的に参加する



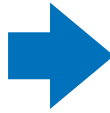
地域コミュニティへの参加は企業の社会的責任の1つです。企業のイメージアップにも繋がりますので、積極的に参加してみましょう。

- 敷地内の樹木を保全する



市街地に残された大樹は地域の貴重な財産です。身近な樹木に目を向け、保全に取り組みましょう。

- 敷地内や屋上、壁面などに、積極的に緑を増やす

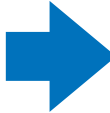


足立区では建築物の屋上及び壁面の緑化、生垣の設置などに対し、補助金制度を設けています。ぜひご活用ください。



くわしくは

- 新たに植栽を行う際は、周囲の自然や生物の特徴にあった種類を選択する



植栽の際は、東京都環境局の「植栽時における在来種選定ガイドライン」を参考に、生物多様性に配慮した植物を選びましょう。



くわしくは

- 広範囲の開発行為等を行う際は、生物多様性に配慮する



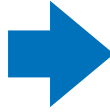
開発行為を行う際は、生物多様性の保全に配慮した計画を立て、新たな緑を創出するなど、緑のネットワーク化を進めましょう。

5 環境を学んで行動しよう

今できることチェックリスト

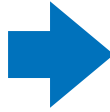
取組みのヒント

- 従業員研修の一環として環境学習の機会をつくる



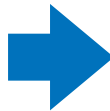
企業向けの環境学習教材などを利用し、従業員が環境について学ぶ場をつくりましょう。一人では取組みにくいことも事業所全体で実施すれば取組みやすくなります。

- 区などが発信する環境情報を事業所内で共有し、従業員の環境意識向上に努める



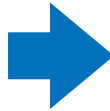
このチェックリストを事業所内で共有し、自分たちでできる身近な取組みについて話し合い、みんなで実践してみてください。

- 事業所内の環境リーダーを育成し、環境保全活動を活性化する



環境問題に関する研修会やセミナーに積極的に参加してみましょ。得られた情報は事業所内で発表したり、説明したりすることで理解が進みます。

- 自らが行っている環境行動について、積極的に情報を発信する



まずは事業所内で行っている環境行動を整理してみましょ。自らが行っている環境行動を事業所内やホームページで発信することで、従業員の意識啓発や企業のイメージアップにも繋がります。

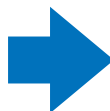
- エコ活動ネットワーク足立^{いーな}(EANA)に登録し、他事業者などとの連携を深める



区内で環境活動を行う団体や事業者を対象としたエコ活動ネットワーク足立^{いーな}(EANA)に登録して、他事業者や団体と一緒に環境活動を進めてみませんか。



- 業界団体や商店街など、既存のネットワークを活用し、環境保全活動に取組む仲間を増やしていく



自分たちだけではできないことでも、協力すればできることがあるかもしれません。仲間と一緒に環境保全活動に取り組んでみませんか。

CO₂ 排出量を減らそう

二酸化炭素 (CO₂) 排出量を減らす取組みは、成果を実感しにくいですが、皆さん一人ひとりの取組みが確実に未来の環境を守ることに繋がり、CO₂を吸収してくれる杉の木を植えていることと同じ効果があります。今できることからチェックして実践しましょう。

外出時や休憩時には
OA 機器の電源をオフにする

年間CO₂削減量 <パソコン>
約15.5kg-CO₂/台・年^{※1}



杉の木の吸収量にすると
約1本分^{※6}



テレワーク[※]を推進する

年間CO₂削減量 <1オフィス当たり>
約398kg-CO₂/オフィス・年^{※2}



杉の木の吸収量にすると
約28本分^{※6}



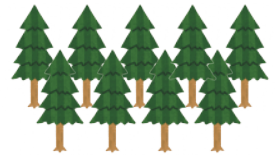
※ ICT (情報通信技術) を利用し、時間や場所を有効に活用できる柔軟な働き方のこと。

移動は自転車や公共交通機関を
利用する

年間CO₂削減量 <社用車から鉄道に切替える>
約 505kg-CO₂/人・年^{※3}



杉の木の吸収量にすると
約36本分^{※6}



ゼロエミッション・ビークル (ZEV)^{ゼブ} [※]を導入する

年間CO₂削減量 <1台当たり>
約642kg-CO₂/人・年^{※4}



杉の木の吸収量にすると
約46本分^{※6}



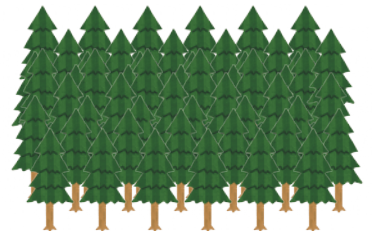
※ 走行時に二酸化炭素等の排出ガスを出さない電気自動車 (EV) や燃料電池自動車 (FCV)、プラグインハイブリッド自動車 (PHV) のこと。

建物をネット・ゼロ・エネルギー・ビル (ZEB)^{ゼブ} [※]化する

年間CO₂削減量 <1棟当たり>
約91,358kg-CO₂/棟・年^{※5}



杉の木の吸収量にすると
約6,526本分^{※6}



※ 大幅な省エネルギー化を実現した上で、再生可能エネルギーを導入することにより、年間の一次エネルギー消費量の収支をゼロにすることを目指した建築物のこと。

※1～※6は、裏表紙の<出典/算定条件>をご覧ください



足立区は、2050年までに、二酸化炭素排出実質ゼロをめざしています。

〈出典／算定条件〉

※1：パソコン(デスクトップ型)を使う時間を1日1時間減らした場合

出典／「家庭の省エネハンドブック2022」(東京都)

※2：オフィス内の16人が週3日テレワークした場合

出典／「令和3年度版中小規模事業所の省エネルギー対策・再生可能エネルギー活用テキスト」(東京都)、
CO₂排出係数(東京電力、2020年度)

※3：輸送量当たりのCO₂排出量から算定 出典／輸送量当たりの二酸化炭素排出量(2020年度)(国土交通省)

※4：仕事での移動距離を20kmと仮定した場合 出典／輸送量当たりの二酸化炭素排出量(2020年度)(国土交通省)

※5：ZEB化により建物のCO₂排出量がゼロになると仮定した場合

出典／オール東京62市区町村共同事業「みどり東京・温暖化防止プロジェクト」(2019年度)、
建築物着工統計(2019年度)(国土交通省)

※6：杉の木1本当たりの1年間のCO₂吸収量を14kg-CO₂(林野庁)と仮定して算定

令和4年10月発行

発行 足立区

編集 足立区 環境部 環境政策課

東京都足立区中央本町1-17-1

電話 03-3880-6049

